

1, スローガン

Believe you can.

2, 理事長所信

Believe you can.

【はじめに】

あなたにとってJCとはどんな存在でしょうか。

あなたの家族や社業に関わる人にとって、あなたが日々おこなっているJC活動はどう見られているのでしょうか。

JC活動を通してあなたが成長し、あなたの周りの人に良い影響を与えられているのでしょうか。

JCでは「明るい豊かな社会の実現」の創造に向け活動をおこなっていますが、まずはあなたの大切な人の明るい豊かな人生に寄与することこそが、その先にある活動地域や日本の明るい社会の実現の創造につながるかと確信しています。

自分の大切な人を笑顔にすることもできず、地域を明るい豊かな社会へと導けるはずがないと考えているからです。

「明るい豊かな社会の実現」という崇高な理念の達成が、誰かの犠牲の上に成り立ってはならない。

それではいつまでたっても明るい豊かな社会が現実となる日は来ないと考えています。

しかし、現実はどうでしょうか。理想と現実との間には大きな乖離ができてるように感じています。

コロナ禍、社会の多様化、社会情勢の加速度的な変化の中で、自身の人生や社業やJC活動に取り組んでいるメンバーにとって、実際は目の前のことをこなすだけで精一杯という現実があるかもしれません。だからこそ今、見つめ直すチャンスだと思っています。

大切な人の明るい豊かな人生に寄与することにまずは目を向け、意識することで見えていなかった事が見えてくるはず。感じ取れなかった事が感じ取れるようになるはず。

小さな気付きかもしれませんがJC運動も同じではないでしょうか。

どうすれば解決につながるのかを見つめ、方法を模索し、打開策に取り組む。

そうすることでまた新たな見識が増え、課題を抽出し、次の問題をどう解決していくのかを見つめ直す。

このトライアル & エラーの繰り返しだと考えます。

色々な課題が山積し、明確なゴールが見えない中で、身動きが取りにくいこともあるかと思えます。

しかし、言い換えてみれば変革の無限の可能性があると捉えていただきたい。

小さな変化が起こり、その小さな変化が噛み合うことから大きなムーブメントが生まれていくように、解決すべき壁が高く無数にある今だからこそ、小さな一つひとつの課題の解決を重要視し、注力していきましょう。

その積み重ねがJC運動の基礎、基本だと考えています。

2, 理事長所信

【奈良の未来へつなく】

今、地域を担うのは私たち青年です。

私たちが歩んできた時代背景における環境や教育から育まれてきた常識や精神性は、今の時代を歩み始めた子どもたちの目には少し違った形で映っているのではないのでしょうか。

きっといつの時代の青年も同じような事を想い、未来を担っていく子どもたちのためにと環境を整え、正しいと考える教育をおこない、日本の未来を託してこられたと思っています。

私たちも今まさに、こらからの未来を担う子どもたちのために、環境や教育に目を向け、美しい精神性と愛郷心を兼ね備えた力強い人へと育むことができる取り組みをおこなう必要があると考えています。技術の発達により世界との距離がより縮まり、情報の収集も容易に素早くできるようになりました。その情報を上手に使いこなすことができれば、地域を豊かにし、それぞれの人生がより豊かになることは誰もが理解しています。

しかし、子どもたちにとっては正しい情報を正しく扱うことが今の情報化社会では難しいことも事実です。無数にある情報に対するリテラシーを高めることで、正しい判断やこの先の可能性を見出すことにつながると考えています。

またその中で、自尊心や他者を慮る心を育み、住み暮らすまちへの愛郷心が醸成し、未来への希望に胸を弾ませ目を輝かせた子どもたちが育つことができる環境を創ることが私たちの役目ではないのでしょうか。これからの時代の新常識を作りながら、受け継がれてきた美しい日本人の精神性を根幹に持ち合わせた、愛郷心溢れる若い力を育てることこそが奈良の未来を輝かせる一步となると考えています。

【J C I 奈良の深化】

奈良青年会議所の創立時より、先輩諸兄から脈々と受け継がれてきたものを軽んじてはならない。

今の私たちの環境があることも、活動地域で活動できていることも、行政や関係諸団体や地域の方々に求められている今があることも、全ては私たちの先輩諸兄より受け継がれてきた事実があるからこそだと私は考えています。

昨今、世の中の風潮として、新しきは善、古きは悪のような価値観が増えてきたように感じています。それは世論だけではなく、J C I も同じような部分があるのではないのでしょうか。

新しいことにチャレンジ！といったような言葉が飛び交っていたように感じています。

もちろん、新しいことを生み出していくことは変革への第一歩となり、必要不可欠ではありますが、その踏みだした一歩が変革へと辿り着くまで歩みを止めないことが大切だと思います。

近年稀にみる社会情勢の変化に見舞われている今だからこそ、J C I 奈良の礎を再認識し、生み出した運動への成果に拘るべきだと考えています。

一つひとつの運動の原点に立ち返り、より成果に執着することでJ C I 奈良のおこなう運動はさらに深化できるはずです。

その深化した先に、新たな知識や見識や経験が生まれ、J C I 奈良はさらなる進化を遂げることができると確信しています。

2, 理事長所信

【会員拡大の重要性】

全国的に見ても多くのL O Mでは会員数が減少しており、存続そのものが危ぶまれているL O Mもあります。J C I 奈良も例外ではなく会員数は減少の一途をたどっています。しかし、全国的に会員数が減少傾向にある昨今でも会員数を増加させているL O Mがあることも事実です。その差は何なのでしょう。組織の魅力の認知不足でしょうか。または、自身がJ C の魅力を味わえていないからでしょうか。原因は様々あると思いますが、私が考える一番の原因は他責思考になっている部分であり、委員会のみが拡大実行する必要があるという風潮になってきているのではないかと感じているからです。こんなときだからこそ、一人ひとりが会員拡大と向き合い全員で拡大に取り組む姿勢を再構築し、会員拡大を自らの課題として捉える必要があると思います。他責思考ではなくメンバー全員が自責思考で、共通課題として取り組めば、結果はおのずとついてくると確信しております。未来のJ C I 奈良メンバーがより運動を展開できるための組織強化の実現に寄与します。

【アカデミーの育成】

温故知新。故きを温ねて新しきを知るという言葉があります。今のJ C にとって必要なことではないでしょうか。社会常識や価値観の変化により、昔と今での差を感じる部分もあり、それを体感しているメンバーも多いように感じます。故きを知らずに新しきを知ろうとするのではなく、まずは私たちの礎を知り未来への可能性を探求する必要があります。またここ2年間に入会されたメンバーはコロナ禍の影響により、事業や例会に参加する機会が少なく、J C I 奈良の活動内容や本来の姿がわからないメンバーもいます。社会情勢の影響も当然としてありますが、受け継がれてきた事業や例会だけではなく、J C 運動の根幹にあるものを肌で感じ、後のJ C 運動につながるアカデミーの育成が必要だと考えています。J C 運動の基礎、基本を見つめ直し、さらに盤石で強固な組織にします。

【地域との連携】

1300年以上の時を経てもなお、奈良のまちは国際文化観光都市として唯一無二の存在であり続けています。しかし昨今のコロナ禍の影響により色々な産業が甚大な影響を受けました。コロナ禍の影響は人々の交流を遮断し、まちの活気を奪いました。しかし、J C I 奈良はどんな状況下にあっても、活動エリアの抱える課題解決に向けた取り組みや、経済復興へとつながる地域と人との橋渡し役として運動を展開をするべきだと考えます。私たちだからこそできることは無数にあり、生活様式の変化に取り残されることなく、地域の活性化に向けて行動する必要があります。J C と地域は手を取り合い、明るい豊かな社会の実現へ向けて歩み続けなければなりません。地域の課題を知り、課題を解決し、そのまちに住み暮らす人々が愛郷心を抱けるようなまち作りを、豊かな奈良のまちの確立をおこないます。

2. 理事長所信

【次世代の人財】

社会情勢の変化、生活のグローバル化、思想の多様化と様々な変化により個人間の関わり方も変わりつつあります。

良い変化もあればそうではない変化も多分にある中で、関わり方の変化による信頼関係の重要性や、問題意識のあり方、礼儀礼節への意識などが希薄化している一面もあるように感じています。

時代がどれだけ進もうとも、技術が発展し便利になろうとも、人は誰かのおかげ様で生きていることを忘れてはならないと考えています。

そのためには、寛容かつ繊細で信頼される人財育成を目指す必要があります。

辛いときこそ他者を慮る暖かく、美しい精神性を兼ね備えた人を。

知恵を出し合い助け合って乗り越えることができる固い絆を。

皆をけん引できる芯の通った強い真のリーダーを。

人と人が世代を超えて磨き合い、輝くまちに寄与できる人財を育みます。

【未来への投資】

今を生きる子どもたちは、昔と比べると便利で豊かで自由な時代に生まれたとされているのかもしれない。

しかし、言い換えてみるとその多分にある選択の自由は不自由であるといえるとも思います。

情報過多な時代に、リテラシーがまだ備わっていない子どもたちには、大人には簡単なことでも判断を誤り、とるべき行動を間違えることもあると思います。

しかし、大人が指示することだけでは、子どもたちの個性あるいきいきとした成長にはつながらないのではないのでしょうか。

まず、大切なことは事象を理解させ、自身の感性を信じ行動することからはじまるのではないのでしょうか。

そして、やりだしたことを最後までやり遂げる行動力の育成、その先にある壁にぶつかった時のトライアウト&エラーの強い精神力の醸成が必要だと考えています。

こうして成功体験を若い時から積むことで、将来必ず強い人間に育つと思っています。

地域の一人の大人として、子育て世帯でもある親として、これからの未来を担う若者に何ができるのか。

JCの単年度制の利点を活かせる分野と、5年10年先を見た取り組みの双方向から若者に伝え、可能性を生み出すことが私たちの使命ではないのでしょうか。

子どもたちの好奇心を耕し、チャレンジ精神という種をまき、信じる気持ちと愛情を注ぎ、未来への希望を託せる健全で大樹のような若者の育成に寄与します。

2, 理事長所信

【おわりに】

行動の先にある成果に拘ってください。

私は自身においても J C の組織においても成果を出すためにはスキルセットが何よりも重要だと考えています。

私が大切だと思うスキルセットは成果=知識×スキル×姿勢×モチベーションです。

知識（理解/インプット）とスキル（能力/経験）と姿勢（態度/アウトプット/行動）とモチベーションがかけ合わさった結果が成果だと考えています。

ひとりでは一定量の注力の継続は難しくとも、私たちには辛いときに支えてくれる大切な人がいます。

困ったときに手を差し伸べてくれる共に活動する仲間がいます。

だからこそ、自らが行っている J C 運動があなたの家族や社業に関わる人にとって幸せを運ぶことにつながらないといけないと思っています。

自分の周りを幸せにできたあなたなら、さらに多くのかかわる人をきっと幸せにできるはずです。

自分一人の力では多くのことを好転させることはできないかもしれません。

しかし、J C 活動を通して苦楽を共にし、涙しあった同志が数多くいるはずです。

人生におけるこの貴重な経験が自らを高め、他者への良い影響を伝播できるはずです。

最初は小さい変化かもしれません。

しかし、その小さなひとつひとつの変化の歯車がかみ合い、さらに大きな歯車へと発展し、地域を変えられることのできるムーブメントに必ず昇華します。

私たちにはそのムーブメントをつなぐという大切な役割があり、一人ひとりに他の誰かではなくあなたにしかできない役割があります。

言い換えるとひとりが欠けると成しえない事柄が生まれてしまうということです。

「明るい豊かな社会の実現」を達成するために、皆で成し遂げるという意識を高く持って行動しましょう。

そして、ひとつでも多くの成果物を未来に託していきましょう。

あなたならできるはずです。

繊細な感性を持ち、力強く大胆に行動できる J A Y C E E でいよう。

ワクワクしよう。さらに成長できることを。

心躍らせよう。これからの輝かしい未来に。

実現するのは私たちです。